

こんにちは
真鍋島の走り神輿
「八幡祭り保存会」を訪問
(平成十一・十二年度助成)



境内を駆け抜ける神輿

笠岡港から高速船で四十分、真鍋島の「八幡祭り保存会」会長井本瀧雄さんを訪ねました。
「八幡祭り」は、旧暦八月十四・十五日に近い金・土・日曜日に行われる真鍋島の秋祭りです。それぞれ八人の若者が担いだ神輿三体が競争する「走り神輿」は江戸時代から伝わる豊漁を祈願するものといわれており、平成十一年には笠岡市無形民俗文化財に

指定されました。

一〇〇kgもある神輿を担いで走る「輿守」の役は、かつてみんなの憧れでしたが、島の過疎化のため担い手が少なくなりました。また、それぞれの神輿を先導する「警護」の役は、祭りの三日間、自宅ですべて八人の寝食の世話をしてきましたが、負担が大きすぎることにより引き受ける人が少なくなりました。

そこで、島と祭りをこよなく愛する人たち二十名が「保存会」を作り、今では「輿守」は島の出身者以外にも依頼し、「警護」は保存会のメンバーで行っています。
祭りの当日には、助成金で作った法被を着てスタッフや観客の整理もされています。危険が伴うだけに、けが人が無く終わったときが一番うれしいとのこと。来年はぜひ見に来てください。観客が多いほど輿守たちも元気が出るんです」という言葉には、伝統を守り継承していきたいという思いが込められていました。(極本)

第十四回教育・文化講演会
新アメリカ教育事情

恒例の講演会を、去る二月二十四日岡山プラザホテルで、約百五十名が出席して開催した。



アメリカの教育を紹介される青木多寿子先生

講師は、認知心理学が専門の岡山大学教育学部助教授青木多寿子先生。
先生は二人のお子様をアメリカの小学校へ通わせながら、母親と教育関係者という二つの視点からアメリカの教育を見て、一九八〇年代以後の教育改革を、体験的な話題を豊富に織り交ぜながらわかりやすく紹介された。(武)

出版案内

平成十二年度

福武教育振興財団と同文化振興財団は十二年度に次のような冊子を出版した。教育関係冊子は県下の教育委員会や学校へ、文化関係の冊子は市町村の文化担当課などへ送っている。
特に、今回は、前理事長の合同葬で参列者に渡すために、「不易流行」谷口澄夫先生を偲ぶ」を発刊した。

- 『年報』(四月)
- 『表彰・助成の記録』(七月)
- 『要覧』(七月)
- 『教育研究助成成果報告書』(十一月)
- 『海外教育事情調査報告書』(三月)
- 『海外教育事情調査十周年記念誌』(三月)
- 『文化』
- 『年報』(四月)
- 『助成の記録』(六月)
- 『要覧』(六月)
- 『文化関係助成成果報告書』

今後の行事予定

- 教育関係助成等募集 四月中
- 鷺鷥会総会・講演会 五月二六日
- 文化・贈呈式 六月十五日
- 教育・贈呈式 七月十四日
- 英語教員研修 七月下旬

編集後記

昨年度は、当財団の初代理事長谷口先生が帰らぬ人となり、福武総一郎副理事長が新理事長に就任するという世代交代があった。
新しい世紀は心の時代、文化の時代。文化は地方で創造し、発信するもの。心の時代は教育の充実から。こんな気概で展開される平成十三年度教育・文化両財団の事業を紹介したい。皆様の投稿も大歓迎である。(武)

不易



理事長就任の
ごあいさつ

―地域に根ざした教育と文化の創造に向けて―

(財)福武教育振興財団
(財)福武文化振興財団

理事長 福武総一郎

福武教育振興財団および福武文化振興財団の創設以来の理事長でありました谷口澄夫先生が、本年一月十五日逝去されました。故人の理事長在任中、皆様のご理解とご協力により、岡山県下の教育と文化を振興するという両財団の目的を軌道に乗せることができ、故人はもとより財団関係者一同感謝いたしております。

す。

このたび、初代理事長の後を受け、私が、一月二十九日をもって両財団の理事長に就任することになりました。

もとより微力ではございますが、谷口澄夫前理事長の、「不易流行」「本末を正す」「知行合一」の銘の意味するところを肝に銘じて、また、岡山県の教育と文化の発展に無私、無欲で夢と情熱を傾注された遺徳を受け継いで、当財団が今後一層充実発展するよう全力を尽くす所存であります。

さて、就任に当たり、今後の財団運営につきまして所信を申し上げます。
今日「心の豊かさ」が求められております。そこで第一には、心豊かな社会づくりには、心豊かな社会づくりには、教育や文化をいかに結びつけるか、第二には、地方の時代に一人ひとりの市民が社会参

第9号
平成13年4月3日
(財)福武教育振興財団
(財)福武文化振興財団
〒700-0807
岡山市南方3-7-17
TEL.086-221-5254
FAX.086-232-3190
http://www.fukutake.or.jp/
印刷(株)シンプレス

加をして心の豊かさを感じられる社会をどのようにつくるか、を真剣に考えることが重要であります。

二十一世紀は、心の充足感を求めて、各地域で一人ひとりの市民が主体的に文化や教育の在り様を活発に模索し、創造し、発信することが期待されます。このような各地域の教育、文化活動が響きあつて一国の文化やそれを支える教育が形成されることでしよう。

このような時代に当財団は、各地固有の風土に伝承されている文化や草の根的な現代文化を活性化し、お手伝いをさせていただいたり、地域に根付いた教育の創造を支援させていただいたりすることを中心課題にしたいと考えております。皆様方におかれましては倍旧のご理解とご鞭撻をお願い申し上げます。

故 谷口澄夫前理事長
千五百人別れを惜しむ
岡山武道館で合同葬



谷口澄夫前理事長の合同葬儀

当財団の前理事長故谷口澄夫先生の合同葬が、去る三月十日岡山武道館で、教育、文化関係者、政財界など約千五百人が参列してしめやかにとり行われた。
黙祷の後、まず、従三位の位記が伝達され、名誉県民の顕彰状が遺族に手渡された。
続いて、葬儀委員長石井正弘知事が「県民が教育を考える『教育の日』の制定を検討

討中である。今後も岡山県の発展を見守ってほしい。」と、追悼の辞を読み上げた。
弔辞は、小野元之文部科学事務次官、河野伊一郎岡山大学学長、福武総一郎当財団理事長などが述べた。
福武総一郎理事長は、「道一筋 炎熱の地平に挑み行く」という、故人の俳句を読み上げ、生涯現役で高邁な夢に向かつて前進されたことを思い起こしながら、福武教育・文化両振興財団の初代理事長として、県内の教育研究を活性化されたこと、アジアとの交流を深められたこと、文化面でも顕彰事業や助成事業などで業績をあげられたことなどに感謝の言葉を捧げた。
終わりに、谷口先生ごき後にも、福武教育振興財団と同文化振興財団が、県下の教育、文化振興のためにお役に立てるよう、全力を尽くすことを誓った。
なお、谷口先生を偲ぶために、先生の著作等をもとに編集・出版した本『不易流行』が参列者に渡された。(武)

福武文化振興財団

文化活動や調査研究の助成額大幅アップ

平成十三年度 事業計画

福武文化振興財団の平成十三年度の主な事業は、別表のとおりである。

定着してきた文化関係助成は、助成総額を千四百万円から千八百万円に増額。平成十二年からの表彰事業は、現在第二回「福武文化賞・福武文化奨励賞」の受賞候補者の選定中、贈呈式は六月の予定。福武総一郎新理事長のもと、今後も更に岡山県内の文化振興に努める。(榎本)



平成12年度開催「獅子舞・獅子ねりフェスティバル」の一場面

I 助成関係事業

- 1 文化関係助成
- 2 指定文化財の保全費用の助成
- 3 文化発表会助成
- 4 特定文化事業助成

II 表彰事業

- 1 福武文化賞
- 2 福武文化奨励賞

III 伝統文化振興事業

- 1 備前焼振興策定事業の支援
- 2 吉備楽の復興、普及の支援
- 3 伝統工芸技術の保全、振興の支援

IV その他

- 1 調査研究事業 (文化団体資料の収集等)
- 2 広報・啓発事業 (教育・文化講演会、文化関係助成成果報告会等)
- 3 財団の活動状況の発刊 (年報、表彰・助成の記録等)

福武教育振興財団

研究助成等の募集

(四月中)

一 教育研究助成

岡山県下の保・幼・小・中・高・特殊及び専門学校の教職員並びに教育委員会所轄の教育研究機関の職員等の個人・団体を対象に、上限二十五万円。

二 図書助成

岡山県下の学校園へ、二十五万円を上限に助成。

三 教育研究大会等助成

岡山県下の研究大会等の開催に際し助成する。助成額は大会により十万円から三十万円。

四 英語教員研修助成

小・中・高の英語担当教員に、レッスン料等一人約五十万円を助成。

五 海外教育事情調査団員

今年度から公立学校及び保育所の教職員は公募となった。

詳細は学校園や教育委員会へ配布している募集要項、または、当財団のホームページ参照。

決定方法：審査委員会等で厳正に審査し、理事会で決定。六月下旬に合否共に文書で通知します。(樽井)

福武教育振興財団

海外は公募制に！助成額上限引き上げ！

平成十三年度 事業計画

【新規事業】

従来からの福武哲彦教育賞に加え、今年度から新たに福武教育奨励賞を設けることとした。岡山県の教育の向上に著しい貢献が期待される教育者または団体を奨励することになっている。

【主な変更点】

海外教育事情調査は、これまで団員は全員、岡山県教育委員会等からの推薦制であったが、今年度から公立の学校園および保育所の教職員は公

募制になった。その他の学校園については従来どおり、関係機関等の推薦制である。期間は十一月六日～十三日。

また、教育研究助成、図書助成の助成額上限を引き上げ、指定研究助成としては、情報教育センターに対し、新しいカリキュラムに関する研究をするための助成を追加することになった。英語教員研修助成は一部グループレッスンを加えるなどしてさらに充実する。(樽井)

I 表彰関係事業

- (1) 福武哲彦教育賞
- (2) 福武教育奨励賞 (新規)

II 助成関係事業

- (1) 教育研究助成 (公募)
- (2) 図書助成 (公募)
- (3) 教育研究大会等助成 (公募)
- (4) 英語教員研修助成 (公募)
- (5) 指定研究助成 (一部新規)
- (6) 特定教育助成

III 調査研究事業

- (1) 海外教育事情調査 (一部公募)
- (2) 県内教育事情調査

IV 広報・啓発事業

- (1) 教育・文化講演会 (公開)
- (2) 研究会・シンポジウム (公開)
- (3) 教育研究助成成果報告会 (公開)
- (4) 海外教育事情調査報告会 (公開)
- (5) ホームページ (公開)

V 調査・報告書等の発刊

第11回 海外教育事情調査 (タイ・マレーシア)

第11回海外教育事情調査は幼・小・中・高・専門学校の先生など17名の団員により、平成12年11月7日～14日の日程でタイのバンコク、マレーシアのクアラルンプールを対象に実施され、調査報告書が三月三十日に発刊された。



タイ・チュラロンコン大学教育学部玄関で記念撮影。前列右から二人目、説明して下さったコビン先生。

バンコクでは文部省などを訪問してタイの教育制度全般にわたり詳しい説明を受けた後、王宮内のチットラダー校

(日本では言えば皇居の敷地内に学習院があるようなもの)、技術専門学校、日本人学校、チュラロンコン大学(日本では言えば東京大学)を訪問した。クアラルンプールでは、丁度学校が長期休暇に入ったばかりで学校訪問はできなかったが、その代わり文部省が二時間の講義を用意してくださった。

タイもマレーシアも東南アジアの優等生として経済的にも目ざましい発展を遂げてき

た。90年代後半通貨危機のためその勢いは停滞しているが、両国とも将来の国を託す人材育成のための教育は最も重要だと位置づけており、それぞれ現在教育改革を実施中である。タイでは二十二年に改革が施行され、義務教育が六年から九年に延長され、十二年までは無償となる。マレーシアでも二十二年までに先進国の仲間入りすることを目標に、特にIT先進国を目指して教育でもIT教育に力を入れていく。

タイは国民の95%が仏教徒であり、マレーシアは国民の半数以上がイスラム教徒である。宗教が国民生活にも教育にも大きく影響を及ぼしている、学校でも宗教教育が行われている。

宗教教育の外にも道德教育、環境教育、国際理解教育の分野がそれぞれ大きな比重を占めている。また、バンコクの訪問校では、毎朝の朝礼で、国と仏教と国王への忠誠を誓う儀式が行われ、国旗が掲揚されると聞いた。

福武文化振興財団

多種多様な活動が発表された成果報告会

平成十一年度に福武文化振興財団の文化関係助成を受けた個人・団体の成果報告会が一月三十日行われた。

ボランティア人形劇サークル風の子による「ラックファンタジー」の実演をはじめ六団体が成果を報告した。展示の部では発刊した冊子や写真などが出展された。

この日、助成を受けた五十件の報告をまとめた「文化関係助成成果報告書」を参加者に配布した。(榎本)



展示による文化活動の発表

昨年度福武教育振興財団から教育研究助成を受けて研究した成果を報告する会が、十一月二十五日に開催された。小中高等学校など四十件の研究の中から七件が報告された。倉敷市立旭丘小学校の今井健一教諭によるCD-ROMの教材制作、岡山大学教育学部附属中学校の平野圭一教諭の高性能電卓を導入した数学の授業、岡山県立水島工業高等学校の文谷元信教諭による「リサイクルオイル小型移動プラントの製作研究」などの報告があった。

発表の後、本研究助成の審査委員長である岡山大学教育学部教授高旗正人先生から講評があり、児童生徒のノートの大切さや、発表に映像を過度に使用する問題点の指摘などがあった。懇親会では、和やかな雰囲気の中で、研究上の情報交換をした。(樽井)